

篠原ユキオ

1948年 東大阪市生まれ
京都教育大美術科卒
京都精華大学名誉教授
(公社)日本漫画家協会参与
FECO JAPAN 会長



1

GREEN



2

BROWN



3

RED

この作品は1984年の第4回読売国際漫画大賞展で大賞を受賞した私にとっては記念すべき作品である。この前年に私は審査員特別賞を受賞していたが、新宿の伊勢丹の展示会場での授賞式で大賞の受賞者の挨拶を聞きながら、来年は絶対に自分がここで受賞の言葉を述べるのだと強く思ったのを憶えている。

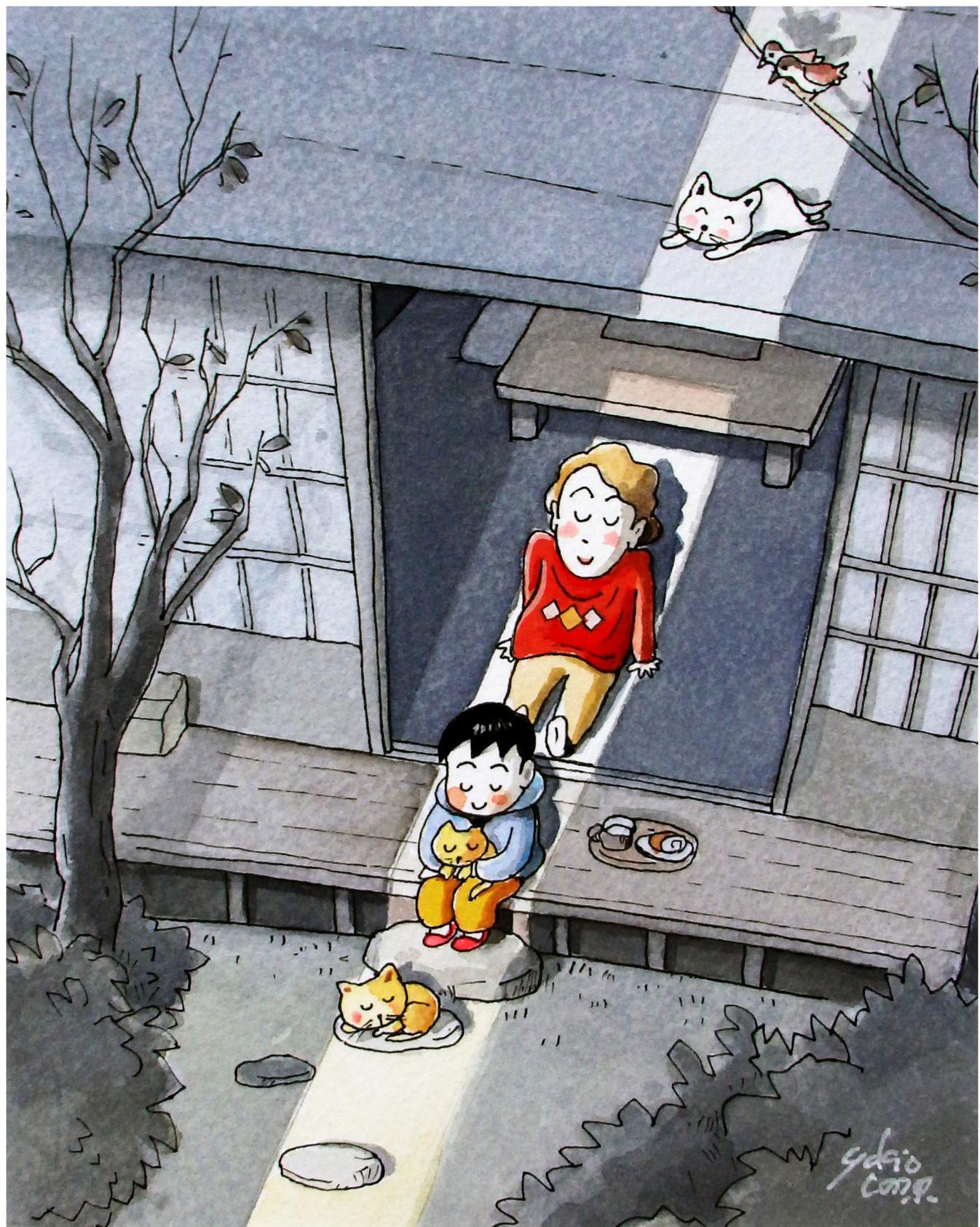
それまであまり動物マンガを描くことがなかつた私だが、自分の中にあら動物マンガへのヒラメキの力を気付かされたのもこの作品がきっかけだつたように思う。この受賞によって17年勤めた中学校の美術教員の職を辞して、専業漫画家としての道を歩む事にも繋がったのだった。

私が39歳の春である。

当時は世界中から9000点ほどの応募作の中には、僕のカメレオンに触発されて描かれたと思われるカメレオン漫画がたくさん現れるようになつたのを見るとちよつと誇らしい思いになる。

私の54年を超える漫画家生活の中で自分でも完璧と言える数少ない作品の一つなのである。

日向ぼっこ



昨年末に知人から一枚の1コマ漫画を依頼された。

自分が座右の銘にしている言葉を絵にして欲しいという事だった。これまでに家族や友人の似顔絵をその人の趣味や愛着のある物とともに漫画にするという依頼は何度か受けた事があるが、今回のように漫画にするという依頼は何度か受けた事がなかったが、今回のような依頼は初めてだった。

出されたお題は『臨機応変』とい四文字熟語だった。

早速いくつかのアイデアを出してご本人の希望も聞きながら仕上げることにした。

実は下書きでは一番前に犬を描いていたのだが、依頼主からは全部を猫にして欲しいという希望があつて最終的にこうなった。

このタイプの日向ぼっこマンガは私の敬愛するサンペ氏がユーヨークの摩天楼を描いたシリーズに様々な設定で多く描かれている。私はこれを日本の昭和の家の風景に描こうと思った訳だ。

自分でも予想以上に良い出来だったので、次にまた何処から注文が来ないかとちょっと楽しみにしている。

トランプの道

左の漫画はトランプが最初に大統領になつた2017年の2月に描いた作品だ。ちょうど京都国際マンガミュージアムで開いた私が会長をしているフェコジャパンの漫画展に出品したものである。

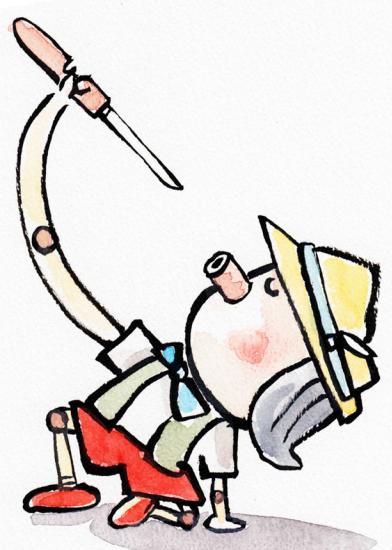
トランプのヘアスタイルと黄色いバナナの皮をダブらせて、世の中を片つ端からひっくり返している姿を描いたのだが、8年経つた今でもその姿は変わらない。



それどころか以前には無かつた硬軟織り混ぜたしたかさと強権的な政治姿勢は、世界の主脳たちにプレッシャーをかけ続けている。

自分とは相対する意見を受け入れず、脅しをかけ、エビデンスの無いフェイク情報を平気で主張し続ける姿を、多くの漫画家たちは彼をピノキオに見立てて描いていた。

そしてこのピノキオの伸びた鼻が実は単なる木の棒では無いということも人々はよく解っているように思つ。





Yoko
2016.10

動物を描く



ちょっと前には大阪のおばちゃんはヒョウ柄が大好きと言われてテレビ情報番組ではオシャレというより笑いの対象として扱われることが多かつた。



Yoko
2016.10



さすがに現在はその猛獣ファッショングを街で見かける事はほとんど無くなつたが、それらとは違う形で動物のイラストをプリントしたシャツや編み込みのセーターなどはワンポイントのブランドキャラクターから大きな物まで多彩で大阪のヒョウ柄ファッショントとは違う立ち位置である。ミッキーマウスやスヌーピーはすでに動物からは独立したオリジナルキャラクターになつているが、犬や猫のイラストモノはご本人が飼つているペットと同調している事も多い。私は自分の旅行カバンに昔飼つていた愛犬のイラストを描いている。

国内の小旅行ではいつもこのカバンを愛用しているのだが、今は主流の車輪のついた樹脂製のスーツケースではなく、重さが片手にかかるこの大きな手さげカバンを使い続けているのは13年前に亡くなつたこの愛犬に対する想いがまだ強く残つてゐることが大きい。